

進捗状況の概要（1ページ以内）

(1) 事業実施体制の構築

令和2年10月の事業採択後、徳島大学内に事業の円滑な執行を目的とする「地方創生人材育成執行本部（執行本部）」と、プログラムに関する全学的な事業推進や創生人材教育開発委員会との連携について審議を行う「地方創生人材育成推進機構」を設置し、本格的な事業を開始する令和3年度に向けて、本事業の「協議の場」となるコンソーシアムとくしまの体制整備について検討を行い、令和3年3月のコンソーシアムとくしま総会において、「創生人材教育開発委員会」設置等の体制整備と事業計画について承認を得た。

「創生人材教育開発委員会」の下に、教育プログラムの運営、改善、評価、FD活動等の具体的な活動内容を検討するWGを置くとともに、迅速な事業運営を行うため、これらのWGを統括する「創生人材教育開発委員会WG」を設置した。

また、組織的なプログラム運営を行うため、総務部地域創生課内にCOC+R事業事務局を設置し、地方創生コーディネーター、事務職員等を配置した。

(2) カリキュラム改訂等

令和3年度の教育カリキュラム開始に向けて教育プログラムを再確認し、徳島大学や参加校から新たな授業科目の追加等を行い、徳島大学において授業担当部局の関連会議に付議するとともに、新規科目のシラバスや履修手引きを作成するなどの準備を整え、教育プログラムを開始した。

また、令和3年7月に参加校による単位互換協定を締結し、参加校間の履修環境を整えた。

(3) 地域クリエイター・マイレージポイントシステムの整備

地域定着意識の醸成、学生と企業やOB/OGとの密度の高い関係性の構築、企業内の課題解決・人材育成の達成と、初学年から大学院生までの教育カリキュラムの継続学習を促進するため、「地域クリエイター・マイレージポイントシステム」を導入した。

(4) 地域企業エクスターンシップ、実践型インターンシップの開講

コンソーシアムとくしまの会員企業・団体等に参画を呼びかけ、20社の企業等が参画し、企業等との関係性構築と課題解決実習の一環として、「エクスターンシップ（地域企業を知る・読み解く）」を開講し、45名（徳島大学42名、参加校3名）の学生が履修している。

また、令和3年6月から、4社の企業等が参画する実践型インターンシップを開講し、14名の学生が参加して、企業の職員とともに企業の課題解決に取り組んでいる。

(5) 遠隔参加型授業システムの構築

コロナ禍における遠隔授業対応とともに、県外学生・社会人・高校生等の非正規履修生の受講に対応するため、対面および遠隔参加のハイブリッド型のICT授業システムを、創成学習スタジオ（理工学部共通講義棟6階）とフューチャーセンター（地域創生・国際交流会館5階）に構築した。今後は、システムに関する小グループ対応などの整備を年次進行で実施する。

(6) キャリアサポートシステムの構築

徳島大学とNTT西日本徳島支店による「ICT利活用による地域活性化連携協定」を締結し、地域への若者定着のための学生への進路指導サポートや人材の地域定着と育成に向けた企業サポートを目指し、企業側の経費負担により、企業の経営風土のデータベースの構築を基盤としたキャリアサポートシステムの開発に着手している。

(7) 参加校における取組

ダイバーシティ・キャリアデザイン科目の導入（令和5年度、開発担当：四国大学）、専門外資格取得サポート（担当：徳島文理大学）、インターンシップ参加に向けた講演会、企業研究会の開催（徳島工業短期大学）、地元企業インターンシップ先の開拓（阿南工業高等専門学校）等、各校の特性に応じた取組を実施している。